

## 私たちが学んだ入所施設におけるソーシャルワーク

### —自己覚知・ストレングス・エンパワメント・尊厳—

私たちは、入所施設で1ヶ月間ソーシャルワーク実習Ⅱを行った。その実習でたくさん  
のことを学んだ。利用者とのかかわりや個別支援計画を作成する中で学んだ、自己覚知・  
エンパワメント視点・ストレングス視点・尊厳に焦点をおいて発表する。

#### 1. 自己覚知

##### (1) 意味

自己覚知とは、他者に対する自分の考え方や対応の根拠がどこにあるのか、どうして  
そのような対応をする自分があるのかを可能な限り客観的に自覚し、感情や態度をコント  
ロールすること。

##### (2) 学び

###### ①認知症の方との関わりの中で

認知症の利用者が繰り返し同じ話をしていても最後までしっかり聞こうとする自分の  
姿勢に気づく。

認知症がある利用者にはよくあるケースで、同じ話題を利用者が繰り返して話している  
と、「さっきも同じこと聞いたなあ。」と思ってしまう部分あると思うのだが、そういった  
感情に囚われ、利用者の話を遮断して突き放してしまうのではなく、今回のような自分  
の一面に気がつくことによって、この時の受容、傾聴の姿勢や、感情を大切にすることが  
でき、また客観的な自分やその時の感情を知ることによって、自分の感情をコントロール  
することができ、今後の利用者に対する支援に役立てていくことができる。

###### ②利用者の話などに感情移入する自分に気づく。

利用者とのコミュニケーションを取る際に、楽しい話、悲しい話等様々な話を聞きました  
が、どれも話を聞いていくうちに当時の利用者の気持ちを考えるようになりました。特に  
私は悲しい話を聞いている時に、感情移入しやすいと感じました。これはバイスティック  
の7原則である「統制された情緒関与の原則」が足りないのだと思います。利用者のニー  
ズを解決するには援助者自身が自分の感情をきちんと自覚し、利用者に引きずられないよ  
うにすることが大事だと感じた。

###### ②コミュニケーションを取る時の不安

自分がコミュニケーションを取る時に不安を感じるということがわかった。

コミュニケーションをとる際に「この事は聞いていいのだろうか？」など不安を感じ  
た。相手の過去を知らないからこそ不安に感じ、聞きたくてもなかなか聞けないことが多  
く、介護職員さんの方に聞くと「話して大丈夫だよ」と言っていたが「本当に大丈夫なの  
だろうか」と不安になってしまう自分を知りました。利用者の関わり方で不安を感じるこ

とが多かったが、そこで諦めるのではなくどうすれば聞きたい話を聞くことができるかなどを考え、話に対して傾聴・受容・共感を大切に、聞く時はしつかり聞き最後までその話を聞くことがとても大切だと思いた。

## 2. 障害者支援施設のエンバワメントについて

利用者にはさまざまな年齢層の方が居て、若い方で20代半ばの方もいた。その方は、肢体不自由であるも、まだ手先は動かせる状態で過ごされていた。しかし、周囲との環境が合わず、活動の機会が少ないので、1日を自室のベッドで横になることやテレビを鑑賞することだけの日が多くあり、生きがいというものから遠ざかっていると考えた。

利用者のできることを現在の環境と調整して活動に参加できるように支援することで、利用者の年齢に応じた対応ができ、本人に役割が生まれ、生きがいに繋がる。

## 3. 特別養護老人ホームの暮らし

食事の介助や準備、衣類の着脱など主に職員の方たちがしていたが、利用者の方にアセスメントを行った際に、本人自身が自分でしたいという気持ちがあることに気づいた。また、施設での余暇が退屈だと利用者の方が言っており、その余暇の時間を少しでも解消するために塗り絵やボール遊びなどのレクリエーションを行っていて利用者の方も喜ばれていた。

## 4. 高齢者対応住宅での尊厳

施設で安心、安全な暮らしができていないことに満足はしているが、人によっては同じことの繰り返し毎日に充実感がないのではないかと感じた。そこで、一人の利用者に焦点を当て、どうすれば施設での生活に充実感を得られるのかを考えた。

その利用者は、施設で生活を始める前はお花の世話が趣味だったため、施設でもお花の世話ができる環境整備をするというプランを立てた。このようにすることで日課ができ、施設生活の日々に充実感を得ることにつながる。

## まとめ

私たちは、実習で学んだことをグループでまとめ、発表することによって入所施設でソーシャルワークの学びを共有でき、より理解を深め、気づけなかった視点に気づくことができた。

今回の実習で得た3つの視点を踏まえて、今後支援者として利用者に関わる際には、この実習で学んだことを活かした支援をしていきたいと思った。